

令和6年7月19日

1学期 終業式 式辞

みなさんおはようございます。令和6年度 第1学期終業式、大過なく迎えることができました。4月よりこの間、みなさんの成長、それを支える先生方の教育的愛情を多く確認することができました。また、体育祭ではこれまでにない多くの関係保護者のみなさんにご来校いただく等、総じて、チーム貝塚南の絆が高まった実り多い一学期でした。

ここで、私の記憶に残る大変美しい光景たくさんありますが、一つお伝えします。5/24お昼休みのでき事です。事務室から体育館にむかう通路にある自動販売機でドリンクを購入した生徒が、開け損ねて中身が手にかかり、大変困っていました。そこを通りかかった生徒、多分新生生であったと思いますが、自分のハンカチを差し出していました。大変凛々しい姿でした。このように、他者への思いやりを行動にうるせる本校の生徒を誇りに思います。思いやりの信条が校内、地域社会、国際社会に醸成されることを期待いたします。

それでは、本日、3年生のみなさんが進路実現に向けて本番を迎えていることもあり、働くことについて少し触れておきます。令和6年度、春に入学した小学1年生の「将来就きたい職業」について、これは、ランドセルの素材で知られるある企業の調査です。信憑性に欠けることはないと思います。1位：(ケーキ屋・パン屋) 2位：(警察官) 3位：(スポーツ選手) です。ユーチューバーがトップ10から姿を消しています。あくまで参考です。

さて、みなさんはいずれ全員仕事を持ちます。進学しようと思っている人はその先を創造して下さい。私の考える仕事の流儀についてお伝えします。学生時代は、問題も答えもほぼ準備されています。しかし、自立して働く場面においては答えのない状況と向き合う場面が多くあり、難しい判断も迫られ、今以上に強く自己責任が問われます。健全な批判的精神は別として、与えられた仕事に対して、「これまで経験がない」「時間がない」「条件がよければもっと良い仕事ができるのに」などという言い訳や責任逃れはよくありません。少しくらい難しい状況であっても不平や不満を語らず「できない」ではなく、「どうすればできるかなど、深く思考し、未来を語る」そして、与えられた条件や環境の中でベストを尽くす。これが自立した大人の仕事です。結果は合格点が望ましいですが、そうでなくてもベストを尽くせば、課題が見え合格点に近づきます。仕事においてこのような構えで臨んでいれば、夢や目標を超えた次のステージにたどりつくようにも思います。

私は、今、教育職員です。みなさんの人格の形成に向け燃え上がる願望を常に備えています。また、この職に対するやりがいや使命も感じています。なりたい職業を問われれば躊躇なく教育職員と答えます。以上、働くことについて参考にして下さい。また、時間がある際に大切な人と働くことについて話し合っただけであれば幸いです。

終わりになりますが明日からの夏休み、個々にめざすものはことなりますが、失敗を恐れず果敢に挑戦し、有意義に過ごしてください。同時に、みなさんの存在自体が周囲を幸せにしています。くれぐれも事故・怪我のないよう健康・安全をこころがけてください。以上、1学期終業式の式辞とします。

校長 藤田繁也